



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 162

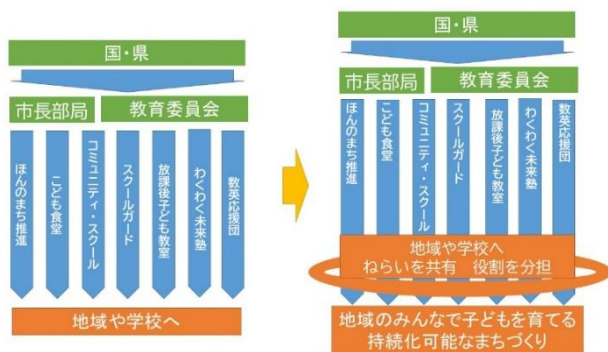
2022

6.10

縦から横へ 地域の中での学校運営協議会の役割を考えると

前号では学校運営協議会で「社会に開かれた教育課程」への一歩として、この1年をかけて学校教育目標を熟議してみるのはいかがですかと提案させていただきました。学校教育目標を熟議するにあたり、もう一度地域全体を見渡し、地域の実態や課題だけでなく、地域の中で進んでいる取組についても整理し共有していくことが大切ではと考えています。

例えば子どもの育ちに関わるものを地域全体でみると教育委員会だけでなく、行政を含め関係機関から様々な施策がおりてきて、様々な取組が進んでいます。しかし、学校側からは、学校に関係することはわかるけど、地域の事となると…、地域側からは、高齢者や福祉、防災等これからの街づくり関することはわかるけど、学校の事となると…といったところが正直なところではと思います。



子どもに関わる様々な取組をより活かしていくためには、縦の流れから、携わるスタッフで全体的にとらえながらそれぞれの動きや役割を把握し、ゴールを共有し横につなげていくことが必要なのではと思います。そうした子どもに関わることを共有しつなげる場が学校運営協議会ではと思います。



そう考えると学校運営協議会のメンバー構成も大切であり、柔軟性が重要だと思えます。学校運営協議会での熟議を深めていくためには、内容によっては第三者的な立場のファシリテーターにファシリテートしてもらおうといった方法も熟議を深めるのにつながるのではと考えます。

本市では「SDGs 未来安心都市・明石へ～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～」に向け「こどもを核としたまちづくり」と「すべての人に “やさしい” まちづくり」を2大柱として掲げ、まちづくりをすすめる明石にとってコミュニティ・スクールは必要不可欠な仕組みだと考えています。

そんなことを考える時に目がとまったのが「広報あかし 6月1日号」で、次のようなキャプションとともに地域の方と一緒に子どもたちの笑顔の写真が目に飛び込んできました。

- ・ 野菜づくりを通して広がる地域交流
- ・ 地域で採れた野菜を地域の子どものに
- ・ 地域ボランティアと子ども達で野菜づくり
- ・ 高校生が育てた野菜をこども食堂に提供

この特集を見ながら、こんな活動が学校の外では進んでいるんだなと感じるとともに、改めて

“もったいない”と思います。地域で行われているこうした活動は、子どもにとってまさしく多様な人の中で多様な学びに触れる貴重な場であり、こうした経験の中で子どもたちの非認知面が育っていくのだと考えます。こうした学びにつなげていく学びを学校からアプローチするきっかけになるのも学校運営協議会での熟議なんだろうなと思います。

松が丘小学校では、昨年から2年生が地域の方の土に触れる場である松が丘ガーデンに生活科で育てる野菜の鉢を置かせてもらい、業間休みに当番の子どもたちが松が丘ガーデンに出かけ、ガーデンにいる地域の方と一緒に自分たちの野菜の鉢や畑の水やりをおこなっています。地域の方とおしゃべりをしながらの水やりのようですが、そこで収穫した野菜を“松っ子マルシェ”で先生や保護者の皆さん、地域の皆さんに販売しています。その売り上げは自分たちが3年になった時環境学習のフィールドとなる中庭のふれあいの池に放流するホタルの幼虫の購入代金にあてるといった流れがデザインされています。この特集を読みながら、収穫した野菜を校区にあるこども食堂で使ってもらうのも子どもたちの視野を広げたりすることにつながるのかなと勝手に妄想を膨らましてしまいました。そんな妄想を地域の人と相談できる場が学校運営協議会であり、地域からのアイデア、保護者のアイデアといったことがどんどん話し合われる場に学校運営協議会がなっていけばいいなと思っています。

各校区の中では様々な取組が進められており、多くの方がボランティアとして動いておられます。まずそうした情報を整理してみることが必要であり、明石では地域でのそうした様々な活動をおこなっている団体が連携して地域づくりをおこなっているのがまちづくり協議会さんと私は理解しています。文部科学省は地域学校協働本部といった学校と地域が協働する組織を考えています。明石にはすでにそうした動きをまちづくり協議会さんがされており、私は学校がまちづくり協議会さんを通して地域への視野を開き、地域で行われている取組と学校での学びをつなげて考えてみることによって、学校がこれまでおこなっていた子どもたちの学びを拡げ、深めることになると考えています。学校運営協議会は子どもの学びを地域のみならず支えるための戦略を練ることを通じて地域でのつながりを拡げ、学校を子どもだけでなく大人の地域社会への入り口としていく場なんだろうなと考えます。

そうした子どもたちの学びを地域の方と一緒に創っているのが、朝霧小学校が取組んでいる朝霧型プロジェクト学習です。朝霧小の学校運営協議会は朝霧型プロジェクト学習の作戦会議の場である、作戦を一緒に練ることを楽しませているのではと感じることがあります。

学校運営協議会の持ち方も学校教育目標や子どもたちの学びの作戦会議といったように考えたり、会議の運営も時にはファシリテーターを招いてファシリテートしてもらったりと柔軟に考えてみることによって「地域のみならず子どもを育てる」といった当事者意識がひろがっていくのではと考えます。そうした明石の取組の一つとしてのこども食堂がネットニュース（女子SPA!）で紹介されていました。

「子ども食堂」で子どもの環境は変わった？明石市の例は

こども財団で食堂運営を支援、全小学校区で開設した明石市

十分な食事が取れていなかったり、孤食を強いられている子どもたちのため——そんな思いから始まった「こども食堂」が急速に増えている。

食堂を通じて子どもの環境は変わったのか？実態を探った。（女子SPA!）

<https://joshi-spa.jp/1159642>



（文責：北本）